

ヨーロッパの肉じゃが

text by Shinji Ishii
文いししんじ

小4のひとひが学校から帰ってすぐ、
「今日の給食、ゼーんぜん、おもてたほど
やなかったわ」
と不満そうにいった。

「え、献立、なんやったん」
「アイルランド風ビーフシチュー」
と、小4はこたえた。

「なんか、ぼっそぼそやった」
中高年の想像を軽々とこえる、いまどきの
小学校給食の豪華さ、そのことを知って
はいたつもりだが、さすがに「アイルラン
ド風」にはたまげた。いったいそれは、ど
んな風なシチューなのか。そもそも給食で
ビーフシチューで、きみら王侯か。宮様か。
うちになぜか豊富にある料理本を開き調
べてみた。アイルランド風、つまり、アイ
リッシュ・ビーフシチューは、牛肉と野菜
を、アイルランドの国民的飲料ギネス、黒
ビールで煮込んだ料理。各家庭のおかあさ

ん、おばあさんによって具や味付けがちが
い、日本での「肉じゃが」くらいに考えて
よいらしい。

なるほど、本に添えられた写真では、ビー
フより芋が存在感をころころ主張し、まあ
いってみれば、肉の風味をギネスでのばし、
じゃがいも、にんじんに染みこませた野菜
料理か。そらまあ、「ビーフシチュー」の
語感から、小4男子が想像する絵姿にくら
べたら、「おもてたほどやない」のも当然か。
配布物の献立表をみせてもらうと、さす
がに小学生に出すのに、黒ビールは使って
いない。パジルやオールスパイス、ローリ
エでシチュー感はだしているが、どのへん
が「アイルランド風」やらさっぱりわから
ない。それより、月あたまに出た「揚げは
もの梅だれあえ」に目がいつてしまう。さ
すが京都の給食だ。「伏見とうがらしのお
かか煮」で、それ木屋町の小料理屋でで

くるやつやん。「さわらの幽庵焼き」で、
なんやそれ、藁で巻いて焼いたりしてんの
んか（甘味たれで焼いた上に、ゆず果汁を
かけるみたいです）。

そういえば、ジェイムズ・ジョイス著「ユ
リシーズ」ゆかりの場所をめぐる仕事で、
首都ダブリンを訪れたとき、パブや大衆食
堂でやたら芋のごった煮を食べさせられた
が、いま考えればあれこそアイリッシュ・
ビーフシチューだったのだ。僕が口にした
皿には肉なんて小指の爪程度さえ入ってい
なかつたし、まさかあれが「ビーフ」料理
だったなんて考えたこともなかった。
それより、鮭でも臓物でも野菜でも、強
めに効かせたニンニク風味が、アイルラ
ンドでとった食事の共通点だったように思
う。そうして、たえずパイントグラスの
ギネスをがぶ飲みしていたから、なにを口
に入れようが胃の中はぜんぶアイリッシュ

シチュー状態だったはずだ。

もう一度献立表をみると、くだんの
シチューのレシピに「ガーリックパウダー」
とあり、この辺がおおむね「アイルランド
風」ということなのだろう。ダブリンと京
都の共通点は、年をとるほど人間としての
ランクが上がっていくこと、中世からずつ
と詩歌が盛んなこと、政治的にいろいろな
目にあつてひねくれ者や皮肉屋が多いこ
と。再訪すればほかにまだまだ見つけ
そうだ。

ひとひ5歳のとき、母の園子さんが好物
の肉じゃがをつくった。ひとひはテーブル
に肘をついて箸で表面をつつつき

「おかーさん、これ、肉じゃがやないやん。
ぶたじゃがやん。ほく、ぶたやなくて、ちゃ
んとした肉の、肉じゃがが食べたいなあ」
「ひとひ、あなた、おかあさんが東京のひ
とだから、肉じゃがに牛肉じゃなくて豚肉
をつかつたって、そう思ってるでしょう」

僕もはじめて食べたとき、東京の肉じゃ
がは豚肉なのか、と衝撃をうけた。近畿で
肉といえば無論それはすなわち牛だ。

「え、そうやないのん？」
園子さんはひと呼吸おき、

「あのね、びつび（ひとひの呼称）はまだ
小さいでしょ。小さい子が食べるのは、大
きな動物じゃなくて小さい動物のほうがい
いの」

「え、どういふこと」
「毎日牛食べるより、豚。豚よりも鶏。毎
日まぐろじゃなくて、サバ、サバよりも
いわし、あじ。ね、小さい生きもののほうが、
からだをつくつてくれる。だから、おかあ
さんは肉じゃがに牛じゃなくて、豚を使つ
たの、びつびのからだのために。わかる？」

「ふーん」
ひとひは一瞬かんがえ、
「それやったら、今度から、ネズミにして。
いや、ネズミもでつかいなあ。カ、やな。カあ

じゃがにして。ほくのからだ、めっちゃ小
さい生きものにつくつてもらおうから」
僕は玄関に走り、口をおさえて笑いこけ
てから台所に戻り、なにくわぬ顔で「ひと
ひもいうようになってきたなあ」といった。
すると園子さんはキッとこつちを振りむ
き、
「ぜんぶ、しんじさんのせいだから
ねっ！」



アイルランド



面積：7万300km²(北海道の面積の約8割強)
総人口：約492万人(2019年アイルランド中央統計局推計)
人口密度：約70人/km²
言語：アイルランド語(ゲール語)および英語
宗教：約78%がカトリック教徒

Profile

1966年大阪生まれ。
京都在住。
著書に小説『ぶらんこ
乗り』『麦ふみクーツエ』
『ポーの話』『みずうみ』
『四とそれ以上の国』など、
エッセイ『人生を教え！』
(町田康共著)『熊にみえ
て熊じゃない』『遠い足
の話』、絵本に『赤ずきん』
(ほしよりこ絵)など多数。

